

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等で着サービス めばえ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置において手厚い職員数が配置されている。1人1人に寄り添うことができます。	職員間で情報共有を行い、同じ方向を向いて支援できるように日々話し合っています。送迎時にも2人体制で送迎できるような職員数は多く配置しています。	PDCAサイクルでの業務改善を行い、1人1人の特性理解を深め、知識の向上のための研修を行ってきます。外部研修もすすめていきます。
2	言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、保育士が連携して支援を行っている。 各専門職員が専門性を活かして支援に当たっている。	定期的なカンファレンス等を開催し、意見交換をして目標設定や支援内容の検討を行っています。 個別言語訓練、作業療法を実施しています。	各職員の専門性の向上のための外部機関での研修参加などをすすめます。
3	チームでプログラムを立案し、幅広いプログラムを行っている。	個人ごとに担当プログラムを持ち、得意な分野でプログラムを準備し実施しています。振り返りを各自行い、情報共有し次月のプログラムへと活かしています。運動。言葉、SST、感触あそび、ビジョントレーニングや指先プログラム、クッキングに外出など様々なプログラムを行っています。	SSTプログラムの拡充と感覚統合プログラムの拡充を行っていきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	段差や階段があり、バリアフリーの観点からは改善点です。	段差昇降時には職員が見守り、介助し安全面には考慮しています。	段差の解消などもふまえて検討していきます。
2	教室の広さ	基準は満たしていますが、運動などを行うには少し狭く感じます。	フロアの使い方の検討を継続します。
3	ペアレントトレーニングや保護者が少ない。	イベントプログラムなどを実施し、交流の機会を持ちましたが、保護者会などの機会がなかった。	イベントに合わせて保護者会の開催も検討したいです。